

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

最年少メダリストに学ぶ

校長 澁谷 一 男

刈り取りを終えた水田の切り株からは、早くもひこぼえ 蘗が生え始めている。今はどこか心細げに見えるこの蘗も自らの力で懸命に生長し、しばらくすると青々と水田を埋め尽くすようになる。

「無欲は怠惰の基である」これは渋沢栄一の言葉だそうだが、私がこの言葉知ったのは、ごく最近のことである。東京パラリンピック競泳女子背泳ぎで銀メダルを獲得した、山田美幸さんの座右の銘との記事を読んで知ったのだ。

報道でご存じの方も多いと思うが、日本選手団のメダル第1号となった山田さんは、阿賀野市立京ヶ瀬中学校の3年生だ。パラリンピック日本代表としては最年少メダリストである。中学3年生の座右の銘が、この渋沢の言葉とは恐れ入る。

山田さんは、生まれつき両腕がなく、両足の長さも違う。水泳を始めたのは5歳の時で、喘息を治すためとお風呂でおぼれないようにするためだったそうだ。パラリンピックを目指そうと思ったのは、5年前のリオデジャネイロ大会を見てからということだが、昨年、大きな転機があったという。障がいの程度を決めるクラス分けで、山田さんはより障がいの重いクラスになった。新たなクラスにはそれまで山田さんが専門にしていた自由形はなく、背泳ぎしかなかった。本格的に背泳ぎの練習を始めたのは1年前ということになる。わずか1年ほどでメダリストになるという脅威の急成長を遂げたのだ。彼女の急成長を支えたのが、先の座右の銘なのだろう。

実際、試合後のインタビューで、山田さんは次のように語っている。「無欲というのは本気でやっていないからだと思う。私だったら『メダルを取りたい』という思いがあって、何事も本気でやって自分の願いに素直に向き合っていきたい。」また、水泳を楽しみながら、より速い記録を目指すのは自分のためだという。「他人のために頑張っているのではなく、自分のために頑張っている。結果としてそれでたくさんの人が笑ってくれたらうれしい。」とても中学3年生の言葉とは思えない、一流のアスリートらしい言葉に頭が下がる思いだ。

2学期のスタートに当たり、廊下の掲示板には子どもたちのめあてが掲示されている。どの子もそれぞれのめあてに向かって、自分自身のために努力してほしい。実り多い2学期であることを願う。

